

# ツリガチ!

TSURI GACHI

★関東でも定着しつつあるスーパーライトジギング、SLJ。今回は外房でSLJをメインにする大原・広布号にお邪魔した。活性の高い中でも、しっかりジグを選んで釣れる魚たち。ひとときよく釣れるジャッカル・パンブルズジグTG SLJをプロデュースしたのは、ヨッシーこと吉岡進さんだ。今回は実釣レポートに、ガチの開発ストーリーを添えてお届け!

「ジャッカルがライトなからルアー選んでもお手軽に釣れた」



## 外房大原沖のSLJ

文◎高橋 剛

「残されちゃったねえ!」ジグをシャクっていると、広布号の操舵室から顔を出した野島幸一船長がにこやかにそう言った。なんのことだか、筆者(ライター・タカハシゴウ)はとっさに分からなかった。「残された……? 何に残されたんだ……?」

0.2秒ほどして分かった。船中、筆者以外の全員が、ワカシ、イナダ、サンバク(イナダとワラサの中間サイズ。外房ではサンバクと呼ばれる)と、大きさは違えど青物を手中に収めていたのである。まだ魚を釣っていないのは筆者だけ。

7月下旬、外房大原沖は活性の高い青物の群れが回っていた。SLJに積極的に取り組んでいる外房大原港・広布号は、5時半過ぎに出船。20分ほど水深20メートル前後のポイントに到着すると、鳥がパラパラと空を舞っており、釣れそうな雰囲気ガムンムンしている。

そして、レッドブルを飲んでパワーをつけたジャッカル・プロスタップのヨッシーこと吉岡進さんは、1投目でいきなりイナダをヒットさせたのだ。「パンブルズジグTG SLJ

の60グラムで、カラーはイワシ/レンズホロ。底を2回ほどネチネチと誘って根魚を狙ってから、宙層では青物狙いで速巻きをしてたんだ。そしたらイナダがガツン! (笑)

底ネチネチからの宙層速巻きというSLJの教科書のような誘いが、1投目から「正解。だったねえ!」

ヨッシー、満面の笑みである。「1投目からこれって、もしや本日本原沖青物大爆釣セール開催か!?」という期待は的中した。海がさらにざわつく。鳥が集結したうえに魚の跳ねも見える。

その勢いのまま、広布号のそこかしこで竿が大きく曲がり、中小クラスの青物が続々と取り込まれていく。もちろんヨッシーもガンガン魚を掛けている。

### ホントに起きたマンガみみたいな出来事

その横で筆者はしんみりとジグをシャクっていた。ヨッシーが使っているパンブルズジグTG SLJ(以下パンブルズジグSLJ)は、筆者ももちろん持っているし、間違いなく釣れるジグだということも経験上知っている。だが、パンブルズジグSLJ



▲釣り人の笑い声と釣られた青物がドタバタ暴れる音で賑やかな船上

がガチで釣れるジグだということを証明するためには、逆説的に、「それ以外のジグでは釣れない」ということを確認しなくてはならない。だから心を鬼にして、あえてパンブルズジグSLJを避けていたのだ。そして筆者は見事に大原沖青物大爆釣セールに取り残されて